

編集後記

本誌29巻11号に会誌編集委員会より大原編集委員長による、本会誌の目標、編集方針、編集方法と査読方法など編集委員会としての考えを掲載させていただきました。是非通読していただき会員のご理解をえたいと考えています。

本巻から表紙の体裁を新しくいたしました。デザインは、昨年5月末日まで公募した結果、5名の会員から9点の応募がありました。専門家の作品も含めて慎重に審査した結果、本表紙のごとく決定致しました。この表紙の考え方は以下のごとくです。「消化器外科学の飛躍的な進歩はもちろん、高度情報社会を支えるハイテクノロジーは、まさに“秒進分歩”で進展しています。ヒューマンサイエンスとしての医学の将来は、まさにこの高度情報社会のテクノロジーの先端にあるといえるかもしれません。表紙デザインは、こうした現状を先鋭的にシンボライズしたものです。(株)ガイア・錦織邦夫」

1号論文の内容は従来の投稿が継続されたもので新しく変わっておりません。卒後セミナー、研究会抄録を除き、原著、症例報告、臨床経験など22編の論文が掲載されております。論文の23%は部分的な加筆修正を加えていただき掲載できましたが、77%は、2回、3回の再投稿、再査読を経て採用させていただいたものです。日本消化器外科学会雑誌投稿規定に沿わないものはもちろんですが、論文の目的が不明瞭なもの、論旨に一貫性のないもの、成績と考察が混同されていたもの、文章の過去形、現在形が統一されず、口語体のままで論文調の表現が使用されていないものなどが多くみられました。指導者の推敲をお願いしたものもあります。オリジナリティのある原著論文、会員が読んで参考になる症例報告が数多く投稿されることを願っております。臨床経験の分野はかなり自由に使っていただけると考えています。消化器外科手術、その基礎と応用が中心となる編集に努力致します。ふるってご投稿ください。蛇足ですが投稿に際し若い会員のご参考に2冊の参考書をあげてみました。

1. 山崎茂明：生命科学論文投稿ガイド。中外医学社、1996。
2. 草間 悟：勉強・研究・発表の技法。南江堂、1996。

(鈴木博孝)